



# 福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2007

3月1日号

101  
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

## 定款改正委任状について



副会長 鈴木 憲二

昨年12月に(社)日本放射線技師会より定款改正の委任状が郵送された。この定款改定にはいろんな問題点が含まれている。

この改正案の最も大きな問題点は、現定款、第5章「会議」、第39条に「総会は、代議員をもって代行することができる。代議員の選出比率は、総会の議決をもって別に定める」となっているが改正案、第4章「総会」第20条では「総会は代議員をもって構成する。」と記されており、また第21条に「代議員をもって民法上の社員とする」としていることである。このことは(社)日本放射線技師会会員の全ての人を民法上の社員としないことである。

総会では次の事項を付議する事になっている。

1. 事業計画の承認、2. 財産の処分、3. 定款の変更ならびに解散
4. その他会長が付議する事項

また現定款、第6章「定款の変更ならびに解散」の45条に「本定款は、会員3分の2以上出席した総会でその3分の2以上の同意を得、なお厚生大臣の認可を得なければ、これを変更することができない」とあり、改正案、第8章第52条では、「本定款は、総会において第21条に定める代議員の3分の2以上の議決を経て、かつ厚生労働大臣の認可を得なければ、変更することができない」と記してある。

従って代議員以外の会員は次の定款改定に意見を述べる場がなくなってしまい、代議員選出が問題となってくるが、代議員選出規程の第3条に「代議員の選出比率は、会員150名まで2名、151名以上150名を増すごとに1名、ただし150名以下の端数については90捨91入とする」とあり、代議員数しか規定されていない。代議員選出後に重要な事項が生じたときには現在の定款では、今回のように日本放射線技師会会員全員に意見を求める必要があるが、改正案では代議員以外の意見は無視することが出来る。

委任状の内容を見ると1、「締め切り時期がいつなのか」2、「会長以外の人に委任出来ないのか」3、「賛成反対と会長委任の両方にチェックしたらどうなるのか」4、「捺印の場所は？」等々疑問点が多く、福島県放射線技師会としても日本放射線技師会より定款改正の問題点について説明してもらい、福島県放射線技師会会員が納得して投票する事が出来るように考えております。

締め切りもない委任状なので決してあわてず暫時お待ちいただきたいと考えております。

福島県放射線技師会は会員を差別することなく、会員皆さんの技術昂揚を目的として活動しておりますので今後ともご協力をお願いしたい。

## 第14回福島県画像技術研究会開催される

第14回の福島県画像技術研究会が平成19年1月13日に福島市の福島テレサに於いて開催された。鈴木憲二代表世話人の挨拶の後、講演に移り今回はCT透視と頭部の画像診断がテーマであった。

県立医大放射線科の本荘浩先生は「CT透視における臨床の有用性」と題して、一般的にはあまりなじみの薄いCT透視の有効活用を講演された。

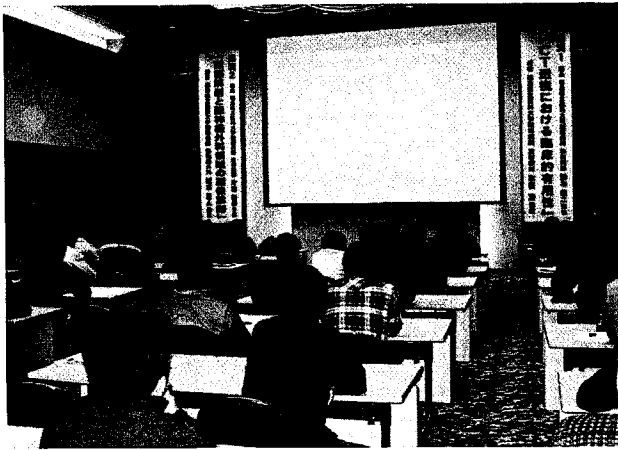
病巣に直接針を刺して、診断や治療を行う方法は以前からあるが、マルチスライスのCTを利用すれば、針の位置をより正確に知ることができ、今までは刺入困難な場所にも対応でき、活用範囲が広がったとのことであった。

専用の装置を一部使うとはいえ、このような使用方法があるのは意外な発見でもあった。

「頭部解剖と脳神経外科領域の画像診断」と題して講演された県立医大脳神経外科の松本正人先生は、マルチスライスCTの開発当初からのエピソードを交え、日々進化する装置に合わせ、より有効な画像を得るために試行錯誤を繰り返したが、その積み重ねが現在の脳外科の手術に非常に役に立っているとのことであった。

マルチスライスCTの開発に大きく貢献した、福島県立医大ならではの話であった。

参加者も県内各地から70名を越え、会場の椅子が足りなくなるほどであった。終了後に懇親会が開かれ、会場ではにぎやかに情報交換が行われていた。(八巻)



## 学術講演会が開催される

平成19年2月17日(土)福島民報ロイヤルホールにおいて学術講演会が開催されました。今回の勉強会では、日本医科大学放射線科の水村直先生による「VSRADの臨床使用と発展応用」、そして福島県立医科大学附属病院救急科の長谷川有史先生による「オーストラリアにおける救急医療の現状とこれからの救急医療」についての講演が行われました。

はじめに、水村先生より、早期アルツハイマー型認知症の診断支援システム(VSRAD)とは、MRIで得られた脳の容積をボクセル単位でコンピュータ解析する画像統計解析法で、早期アルツハイマー型認知症特有の海馬・

海馬傍回の萎縮の形態画像情報を解析し診断支援情報に変換するシステムであり、早期治療を行うための診断補助として有用性が大きいとの話でした。各施設より多数の質問があり、このシステムについて関心が高い事を反映しているようでした。

次に、長谷川先生よりオーストラリアにおいて2年間研修されたご経験をもとに、医療制度や救急医療の現状について日本(福島県)と比較されながら、大変興味深い貴重なご講演をいただきました。平成19年度秋に、県立医大にドクターヘリが導入されることもあり多くの参加者が熱心に聴講されていました。(池田)

## 全国自治体病院協議会 福島県支部放射線部会開催される

平成18年度の自治体病院協議会福島県支部放射線部会研修会がいわき市の新舞子ハイツで開催された、参加施設数が限られ10名の参加であったが、講演会、総会、懇親会と充実した内容であった。

本田 規部会長(磐城共立病院)の挨拶の後、2題の講演が行われた、「画像ネットワークの基本的な考え方」と題してPSPの佐藤政幸先生から画像ネットワークの現状と導入のための注意点などの話があった。現在急速に導入が進んでいる画像ネットワークであるが、基本的な考え方を整理していただいた、また周辺機器の進歩も著しく、システム構築に当たっては、柔軟な考え方で、最新の情報を十分に検討する必要があると痛感した。

特別講演は福島県立医大放射線科 長谷川 靖先生の「日々の!!な症例」と題して、今まで画像診断医としての経験の中で、これと思った症例を集めてのお話であった。

画像として映るはずのないもの、あるべきものがないものや意外な発見など、普段ではなかなか見ることのできない画像を見せていただいた。

滅多に出会うことがない貴重な画像もあるが、ごく日常的に経験することでも、撮影時の些細な不注意で意外な像を呈することもあり、驚きであった。

こんな時にも頭の片隅に今日のような話が残っていれば、冷静に対処できるのではないかと思われた。

総会の後、懇親会に移り少人数の会だけに、和気あいあいと深夜まで懇親の宴が続いていた。(八巻)

## 第23回放射線技師総合学術大会

例年、秋に開催されている日本放射線技師会主催の標記大会が、19年度は6月7日(木)～10日(日)金沢市で開催予定で、本会にも参加登録券が委託されています。高速道路網のお陰で本県からでも数時間で着くので、今年の参加予定を立てては如何でしょうか。登録券の購入は各支部長宛に申し込んでください。

なお、大会開会式時に行われる永年勤続表彰には、本県から申請した永年勤続30年表彰7名の方が該当者として全員承認されておりますので、是非、長年のご苦勞を奥様ご同伴でご受賞されることをお奨めします。

## 村松影治氏 瑞宝雙光章受賞祝賀会

平成19年2月18日に郡山市ビューホテルアネックスに於いて村松影治氏（現、会田病院）の瑞宝雙光章受賞祝賀会が行われた。発起人は県技師会会長、県南支部会長で挨拶には各御歴々の方々が祝辞を述べた。氏は長く太田総合病院に勤められ、技師会理事の歴任や保健活動が今回の受賞となった。私事になるが私の新人時代の技師長であり、頭の上がらない尊敬すべき人の一人である。

祝賀会は厳かな雰囲気の中にも暖かい感じのする会で、75名を越える関係者が集った。 (北島)



## 会 告

平成19年3月1日

下記により、平成19年度社団法人福島県放射線技師会総会を開催いたします。

記

第60回（平成19年度）

社団法人福島県放射線技師会総会

日時：平成19年5月19日（土）14時より

20日（日）11時まで

会場：いわき市「新舞子ハイツ」

プログラム

【第1日目】

14：00 開 会  
 14：10 分科会報告会  
 15：15 特別講演  
 演題「いわき市美術館の魅力」  
 いわき市美術館 学芸員

16：30 総 会  
 役員改選

18：00 懇親会  
 20：30 分科会懇話会

【第2日目】

9：00 各分科会・委員会

## 告 示

定款第11条及び第13条の規定に基づき、平成19・20年度役員選挙を下記により行います。

記

- 1、役員の定数  
 会長：1名 副会長：2名  
 監事：2名 理事：11名以上14名以内
- 2、立候補、推薦候補届出受付開始日及び締切日  
 平成19年4月1日より4月29日正午まで
- 3、投票日  
 平成19年5月19日平成19年度総会開催日  
 以上告示します。

平成19年3月1日

社団法人福島県放射線技師会  
 選挙管理委員会

委員長 堀江 常満 委員 佐藤 靖芳  
 委員 遠山 和幸  
 委員 幕田 節男

## “喝” ふざけるな

事務局長 伊藤 陸郎

歳をとると短気になるというが、のんびり屋の小生にも黙ってられない事態が続く。日本放射線技師会では、会費未納者に個別連絡を始めたらしい。

ところが、既に県技師会に納めているという返事なので調べてほしいというメールが届く。その都度会員台帳で点検しなければならない。前年度分の納入と勘違いしている会員がいる。納めたといっても一か月前の会員もいる。事務局を担当しているのは皆さんと同じく毎日忙しい業務を終わったあとボランティアで技師会の仕事をしているのである。日放技会費の本部送金も一か月分を纏めて送る。

もともと、日放技会費は9月が納入期限で会員資格がなくなることは雑誌、ネットワークで広報のはず。20年度からは4月1日になることも決まっている。会員として資格取得などの恩恵を受ける気なら会費は早期に納めるべきで事務局のせいにはしないでほしい。



## 県北支部

「県北支部新年交流会」開催される。

平成19年1月19日、福島テルサにおいて毎年恒例の新年交流会が行われました。

席上、斉藤重夫支部長より新年の挨拶があり「今年も技師会の活動や、各種勉強会に積極的に参加していただきたい」との呼びかけがあった。また、片倉県技師会長

より「今後、福島県放射線技師会を公益法人としていくために、“本会が県の地域医療向上に役立つ”との公益性が認められる事が大切であり、そ



れと共に“多くの方の入会が必要である”とのお話があった。その後、伊藤県事務局長の乾杯の挨拶で開宴となった。

参加者は50名を超え、日頃の仕事の話や趣味など様々な情報交換が行われていた。また、今回も女性技師の参加があり大いに盛り上がりました。

今後も支部の活動を活発化するために、会員の皆様の積極的な参加を望みます。(池田)

## 県南支部

### 県南支部新年勉強会開催される

平成19年1月27日に郡山市ビックアイ市民プラザで午後15時より、技師会県南支部新年勉強会が開催された。一般研究発表は4題で下記の通りでした。

「Avanto 1.5T使用経験」

○太田西ノ内病院 佐藤修一

「一般撮影における撮影補助具の検討」

○白河厚生総合病院 金澤孝彦

「当院における撮影時被曝線量

—F/SシステムでのNDD法による表面線量の測定—」

○埼厚生病院 我妻真一

「当院における心臓MR検査の現状」

○太田西ノ内病院 柳沼孝寿

一般研究発表後、平成18年度学術奨励賞表彰式があり吉田豊県南支部長から今年度の学術奨励賞が会員へ手渡されました。

第二部、伝達講習会「被ばく線量測定について」

マンモグラフィー領域

○JA福島厚生連 白河厚生総合病院 石森光一氏  
一般撮影領域

○脳神経疾患研究所付属総合南東北病院 飯野克郎氏  
去る平成18年8月6日に東北大学病院で開催された医療被ばく計測セミナー「被ばく線量測定について」の伝達講習会として上記の講師から報告がありました。

被ばく線量評価の最終目標は被験者のX線入射面における皮膚(組織)吸収線量をグレイ[Gy]単位で求める事でした。実際の計測方法、実効エネルギーの測定(半価層の測定)、照射線量計で測定された値の補正、照射線量と組織吸収線量変換係数から計算で皮膚入射面の吸収線量を求める計算方法などを解説して頂きました。

この他、アルミ板の純度とコストに関して、測定機器メーカー販売とホームセンター販売のアルミ板を比較検討した報告もありました。

測定機器メーカー販売のアルミ板は厚さによって純度が違うものがあり、結果として半価層および実効エネルギーの測定値に誤差を生じ、アルミの純度に依存しているとのお話がありました。これによりホームセンター販

売のアルミ板でも純度が99.5%以上のものであれば安価で半価層測定の実験が行える事がわかりました。質疑応答ではメーカー販売のアルミ板が厚さで純度が変わるのは問題ではないかななどの話もあり、次回第2報を期待したいと思います。

勉強会の後、会場を郡山駅前のお洒落なお店「熱烈美食BAN Boon」で懇親会が開かれました。(車田)

## 会津支部

### 第64回会津画像研究会開催される

平成19年2月2日(金)、山鹿クリニックにおいて、第64回会津画像研究会が開催されました。

まず、造影剤のICタグ付きシリンジについて、製薬会社の方からお話を聞くことが出来ました。シリンジにICタグが付くことによって、使用時にシリンジ情報が読み込まれて、プッシャーが自動的にセットされたり、圧力リミットの最大値がセットされたりと言った業務の効率化に繋がることや、ICタグに組み込まれた固有情報によって、使用期限切れの管理や使用済みシリンジ再装填などの事故防止にも有効であるとのことでした。

次に、液晶モニターについての講演をして頂きました。現在、フィルムレスによるモニター診断が急速に進む中で、単純に汎用と医用との使い分けだけではなく、各モダリティによってもカラー・モノクロ・画素数などを考えた上での運用が重要であり、また、品質管理をどのようにしていくのかガイドラインの整備と普及が今後の課題のようでした。勉強会の後は、新年会として立食パーティーを行いました。今年初めての会津支部の集まりでしたので、大いに盛り上がったようでした。

当日は、あいにくの雪でしたが、それでも多数の方へ出席していただくことができ、無事に開催することが出来ました。(森谷)

## 浜通支部

### 浜通り支部役員会開催される

平成19年2月9日、富岡町のリフレ富岡において浜通り支部役員会が行われました。

この場所での開催は、いわき地区および相双地区の双方が縦長の地域で参加のしやすいようにという配慮で、本田支部長の発案のもと昨年の夏季セミナーより始めました。参加率には顕著に反映しないところが頭の痛いところですが、まずは支部としての参加を促す取り組みの一環です。席上では次年度の浜通り支部の総会・学術発表会や夏季セミナーなどの内容が話し合われました。

(大森)

## 編集後記

今年は暖かい冬を迎えています。温暖化の影響が懸念される所です。技師会内部にも沢山の研修やセミナーがありポイントで管理運営される時代になりました。技師会の春は本当に来るのでしょうか…。

(大森)